GPT-6時代の知財戦略設計図

SolとLunaがもたらすコスト破壊と安全へのシフト

単一モデル依存から、マルチモデル・パイプライン構築へのパラダイムシフト

Executive Summary

核心的インサイト

2026年9月公開の新モデルの真価は、知能の向上ではない。

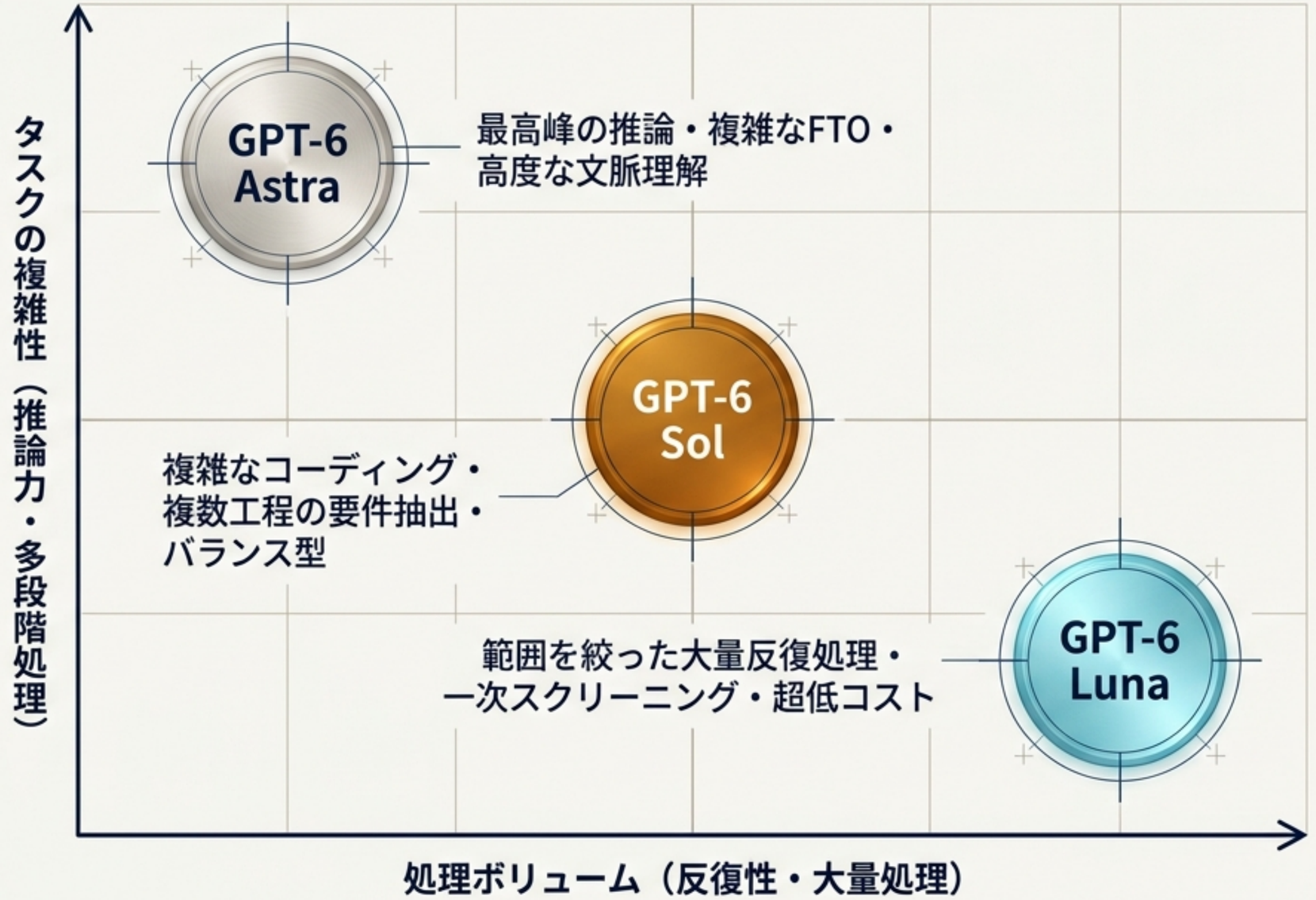
Astra比で1/5〜1/100となる圧倒的なコスト破壊と、不明な問いに対する安全側へのシフト（回答拒否）にある。

知財実務への示唆

簡潔さの代償として生じる網羅性の低下リスクを直視する。

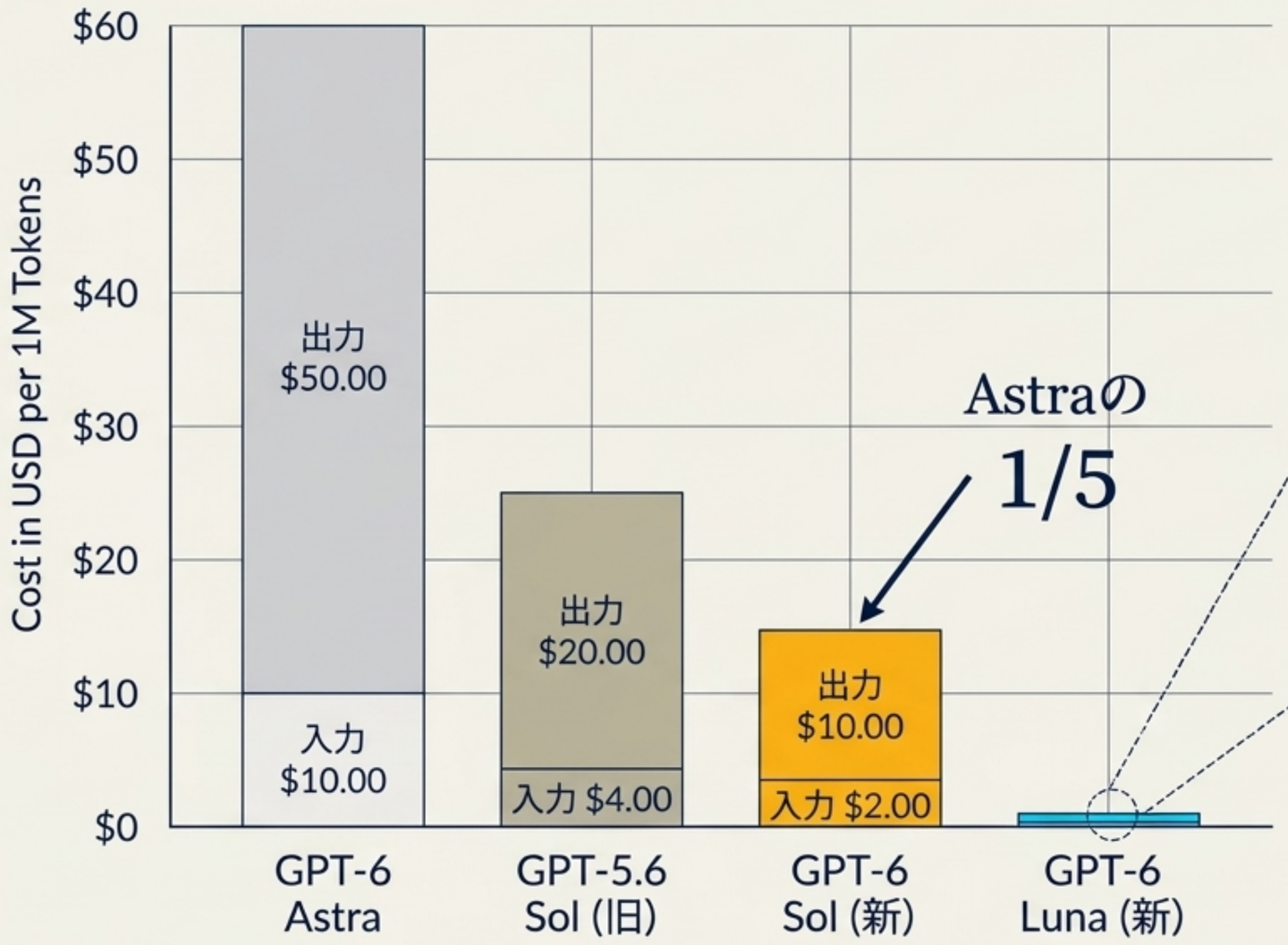
Luna（大量スクリーニング）、Sol（要件抽出）、Astra（複雑な検証）を適材適所で組み合わせる検証のパイプラインの構築が急務。

GPT-6 エコシステムにおけるモデル・ポジショニング



主要スペック
公称コンテキスト長
両モデル 105万トークン
最大出力
両モデル 12.8万トークン
知識の基準日
Sol: 2026年4月20日 Luna: 2026年5月18日

The Cost Destruction: 圧倒的なコスト破壊のスケール



知財大量処理の単純試算

1件当たり入力1万＋出力2,000トークンを
1万回処理した場合

Sol: $400　Luna: $20

知能と効率のフロンティア：性能微増と効率激変のトレードオフ

知能の停滞 (Intelligence Index)

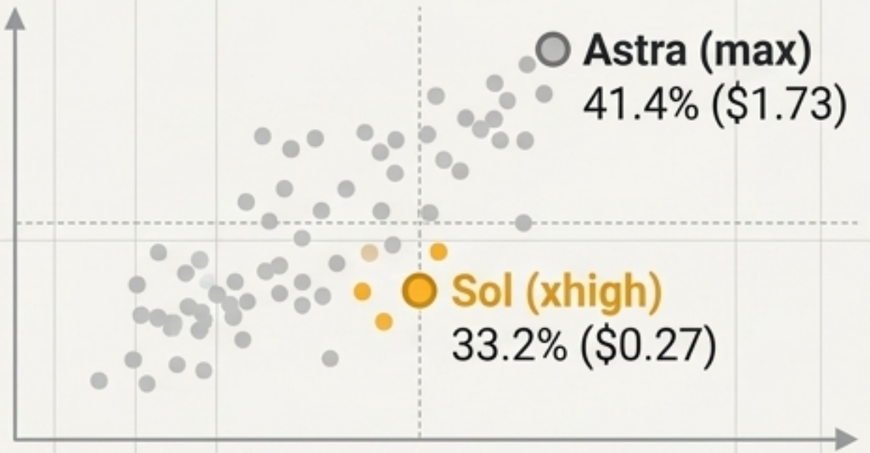
Artificial Analysis Intelligence Index v4.3.2

GPT-5.6 Sol	47
GPT-6 Sol	**48 (微増)**
GPT-5.6 Luna	37
GPT-6 Luna	**37 (変化なし)**

参考: Claude Opus 5.5 = 58

効率と速度の飛躍 (Efficiency & Speed)

Zapier AutomationBench スコア vs コスト



最高設定のmax(32.0%)より、xhigh設定の方が高得点かつ低コストを記録

ハルシネーション減少のパラドックス：回答拒否メカニズム

AA-Omniscience 100-trial simulation

旧モデル
(GPT-5.6 Sol)

100問入力

99問 回答試行

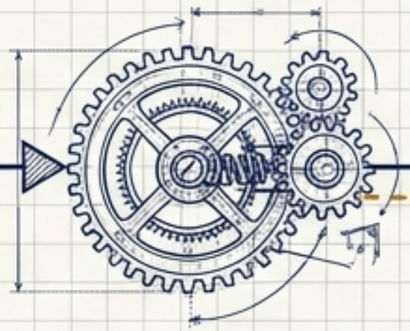
正答 59問

誤答 40問

ハルシネーション率 92%

新モデル
(GPT-6 Sol)

100問入力



安全装置
(Safety Guardrail)

83問 回答試行

正答 54問

誤答 29問

ハルシネーション率 60%

17問 回答保留 (Refusal)
として弾き出す

インサイト：わからない問題に対して、もっともらしい嘘（架空の公報や判例）をつくくらいなら、黙るようになった。
知財実務においては「関連文献なし」と「モデルの回答保留」を明確に区別し、人間へエスカレーションする設計が不可欠である。

出力品質のトレードオフ：「簡潔さ」と「網羅性」の天秤

知識労働の成果物評価
(GDPval-AA v2.1)

- Sol: 約 100 Elo 低下
- Luna: 約 75 Elo 低下

知財実務へのクリティカルな警告

簡潔な出力スタイルは、特許請求項の対比や拒絶理由対応において、採点上必要な要素（構成要件、対比根拠、反対解釈など）の脱落を招く。

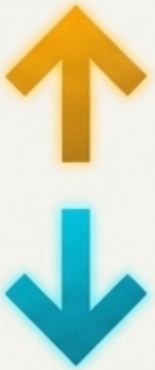
対策：対象請求項、相違点、留保事項などを事前に指定し、各項目の充足を厳格にチェックするプロンプト設計が必須となる。

コーディングと自動化：現実的な限界と特化領域

基礎開発能力 (DeepSWE v1.1 コーディング性能)

Lunaも一定の基礎開発能力を有し、単純な自動化スクリプトには十分適応する。

高度な自律的作業 (Coding Agent Index)



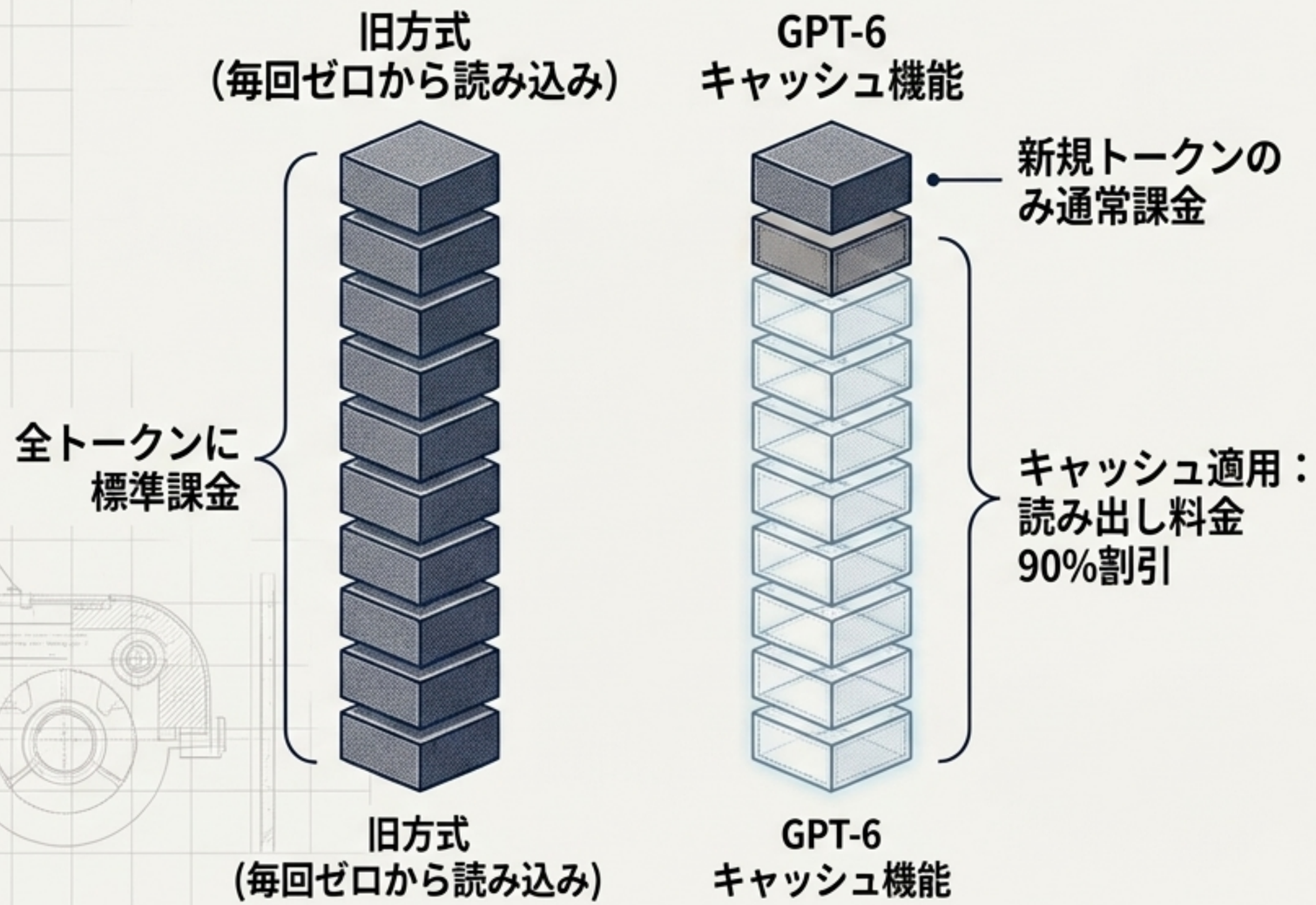
Sol: 55 → 57 (上昇)

Luna: 43 → 41 (低下)

複雑なコード作業や自律型エージェントとしての能力は、Lunaでは後退している。

結論：Lunaの低価格化は圧倒的だが、高度な自動化パイプライン構築まで一律に改善したわけではない。複雑なシステム統合やデータ変換には、依然としてSol以上の推論モデルが必要不可欠である。

プロンプトキャッシュの威力：長文処理コストの劇的圧縮



コア・メカニズム

- 条件を満たす入力の読み出しが90%オフ
- 30分以内の再利用で有効。推論の強さやツールを変更してもキャッシュを保持。

知財実務への適用例

- 共通の評価基準（審査基準や特定技術の定義書）を先頭に固定
- 数千件の特許公報を順番に流し込むバッチ処理において、大幅なコスト破壊を実現。

The Fundamental Shift: 知財業務パラダイムの転換

【旧】単一モデル依存 (The Single-Model Era)

特許調査
要約
FTO

GPT-4 / Astra

高コスト・長時間
の待ち時間

【新】マルチモデル・パイプライン (The Multi-Model Pipeline)

大量の入力データ

Layer 1
GPT-6 Luna
(スクリーニング・分類)

Layer 2
GPT-6 Sol
(精密抽出・対比表作成)

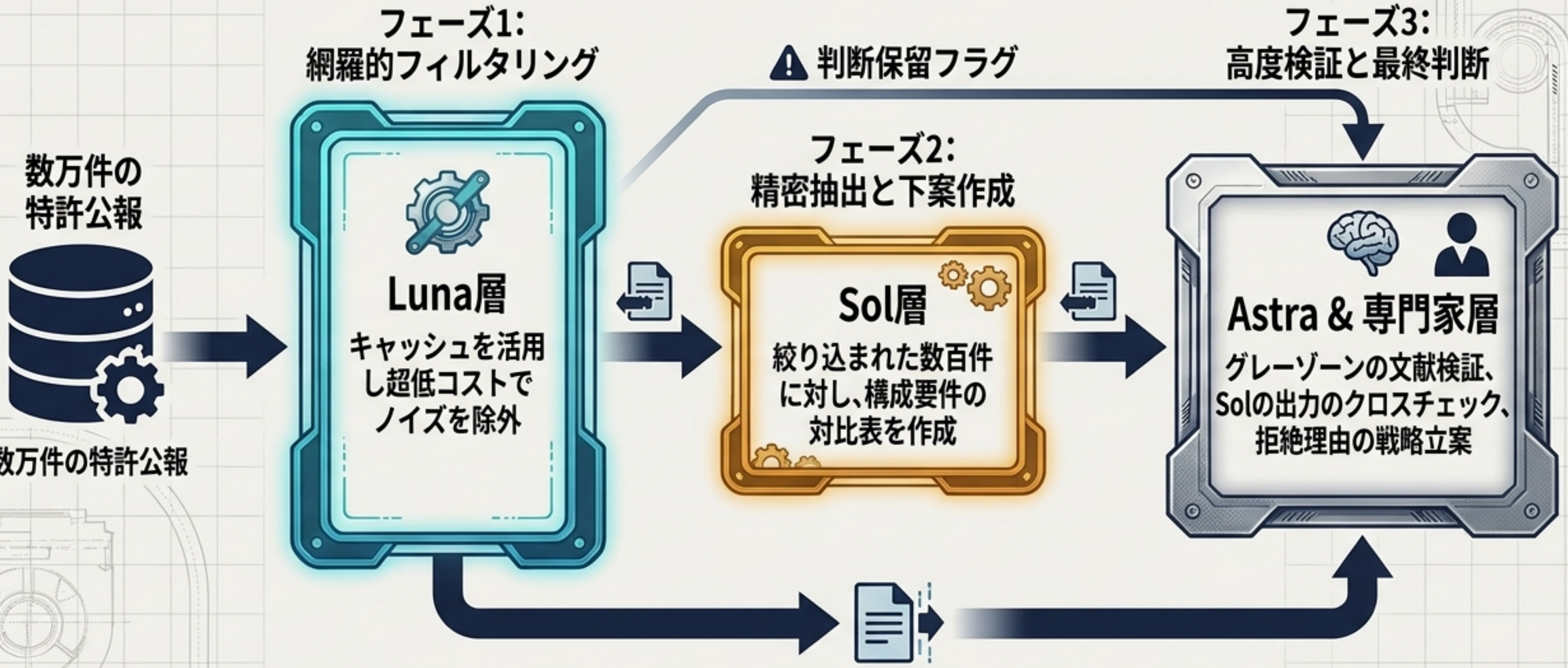
Layer 3
GPT-6
Astra & 専門家
(高度検証・FTO論点)

コスト最適化と品質担保のオーケストレーション

Task Allocation Matrix: 知財業務別の役割と検証ポイント

業務タスク (Task)	推奨モデル (Model)	人間が必ず確認すべき死角 (Blindspots)
一次スクリーニング・書誌情報抽出	Luna	⚠ 抽出漏れ、関連文献の見落とし、「判断保留 (Refusal)」の不適切なスキップ
請求項分解・構成要件対比表下案・技術動向	Sol	⚠ 構成要件の脱落、引用段落の不正確さ、必須項目の網羅性欠如
複雑なFTO論点・拒絶理由対応	Astra	⚠ 解釈の妥当性、法的根拠、最終的な専門家による総合的判断

Designing the Validation Pipeline: マルチモデル検証アーキテクチャ



結論：大量のLunaによるスクリーニング → Solによる要件抽出 → 不足部分をAstraと専門家が補完。これがGPT-6時代の最適解。

Risks & Safety Guardrails: 導入における致命的な注意点

長文コンテキストのペナルティ
The >272k Threshold

入力が27.2万トークンを超えると、リクエスト全体に入力・キャッシュ２倍、出力 1.5 倍の特別料金が適用される。文献の分割単位の最適化が必須。

Lunaの過剰拒否リスク
Over-refusal in Safety

安全性評価での高い拒否率がが、正当な特許調査依頼までブロックする可能性がある。「安全性の改善」と「業務完遂能力」のトレードオフを常に監視する仕組みが必要。

Solのエラー残存
Remaining Severity Issues

内部評価で深刻度3以上の問題行動は36%減少（66件→42件）したものの、ゼロではない。
外部利用での事故率を独自に検証するフェーズが不可欠。

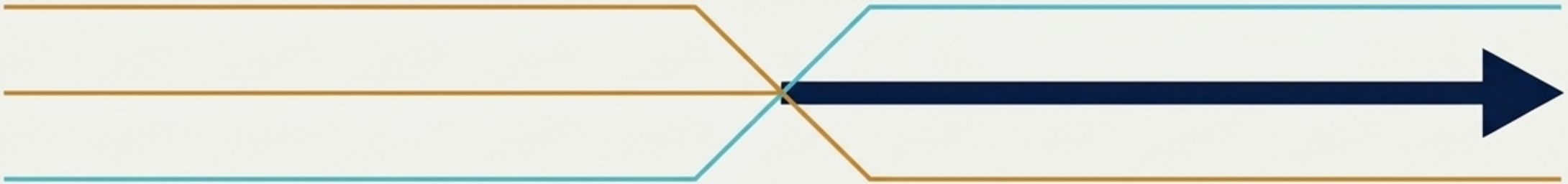
Rollout & Availability: 提供プランと展開状況

プラットフォーム / プラン	提供モデル	ステータス
ChatGPT Work / Codex (Plus, Pro, Business, Enterprise, Edu)	Sol / Luna 両方	✓ 提供済み
無料版 (Free / Go)	Luna のみ（デスクトップアプリ限定）	✓ 提供済み
API	Sol / Luna 両方	✓ 提供済み
GitHub Copilot	Sol（Pro+等）/ Luna（Pro含む）	✓ 提供済み

注意喚起アラート

通常のChat版（無料ウェブ等）では発表時点（2026/9/23）で未提供。また、定額プランにおける利用枠（レートリミット）の早期消費に関する指摘も散見されるため、API単価と定額プランの体験は分けて評価すること。

プロンプト・エンジニアリングから、パイプライン・オーケストレーションへ。



GPT-6 SolとLunaは、知能の魔法ではなく、圧倒的なコスト破壊と安全機構という強力な産業用ツールを我々にもたらした。
これからの知財専門家の役割は、単一のAIに完璧な回答を求めることではない。
モデルの特性と死角を熟知し、Lunaの機動力、Solの抽出処理、そしてAstraと人間の高度な判断力を織り交ぜた『絶対的な信頼性を担保する検証パイプライン』を設計・統括することである。